

沖縄の美ら星 ～豊かな星文化にふれる～

宮地 竹史
星空ガイド・アドバイザー
元石垣島天文台所長

はじめに

沖縄は、日本の最西南端に位置し、本土とは異なる独特のすばらしい暮らしや文化、芸術があり、古くから受け継がれてきています。

その中でも夜になって見上げる星々には、日々の暮らしの中で生まれたたくさん名前が付けられていて、それらは民話や伝承話として、あるいは古謡などに謡いこまれ、今なお語られ、謡い伝えられています。

沖縄の星や星座の名前から、沖縄の人々がどのように星空をながめてきたか、どのように星と共に暮らしてきたか想像され、その豊かな感性に驚かされます。これらは、「星文化」といえるものです。今回は、その一端を紹介します。

1. 国頭村の「天孫降臨」伝説

沖縄本島の最北端の国頭（くにがみ）にある安須森（あすむい）の山、大石林山（だいせきりんざん、標高 204m）には、かつて神が降り立ったという「天孫降臨」の伝説が残っています。山の尾根の形状が人の横顔に似ており、信仰の山で、頂上には御嶽（うたき）もあります。

梅雨が明けには、「ていんがーら（天の川）」が、南から北へと流れるように見えるようになり、それは天から大石林山に降臨する神の通り道のようなようです。

2. 「星砂伝説」と「ていんがーら（天の川）」

沖縄の八重山諸島の竹富島に残る民話に「星砂伝説」があります。いわゆる星砂にまつわる民話で、竹富島の海で生まれた星の子供たちが、海の神様の寄こした大蛇に食べられ、その骨が星砂となって浜辺に打ち寄せられますが、御嶽の神司（つかさ）によって天の父母の元に帰されるというお話です。

春先の「ていんがーら（天の川）」を見ていると、その由来がわかるのです。

3. 「ていんがーら（天の川）」で、うなぎ釣りをする酔っ払いの老人（オジイ）

沖縄では、6月の「海神祭、はーりー」が終わると夏になります。初夏の宵の空にはさそり座が天に昇るように見え始めます。北太平洋の地域と同じく、沖縄でもさそり座は釣り針と見立てていて、「いゆちゃーぶし（釣り針星）」と呼ばれます。天の川の暗黒星雲の筋をうなぎと見立て、赤いアンタレスは、「びたこりぶし（酔っ払い星）」とされ、「夜な夜な、泡盛（沖縄の酒）を飲み、顔を真っ赤にしたオジイが、天の川でウナギ釣りをしている」というお話が、伝承されています。

また、この「いゆちゃーぶし（釣り針星）」が見えたら、子供達に「早くお家に帰らないと、あの釣り針で、首根っこを引っ掛けられて天に連れていかれるよ」と、帰宅を促していました。

4. 流れ星（ふしぬやーうちー）と彗星（いりがんぶし）

沖縄は、初夏から秋にかけては晴天が続き、夏の星座が美しく、流れ星もたくさん見られます。沖縄では、流れ星を「ふしぬやーうちー（お星さまの引越し）」と呼びます。絵に描くと同じように見えますが、彗星のことは、女性が髪を高く結うときに使う入髪（いりがん）に似ていることから、「いりがん（入髪）ぶし」と呼ばれます。

5. 一日の暮らしの中で呼び名が変る金星

金星は、夜明けや夕暮れに明るく見えるため、沖縄ではいろんな名前がつけられています。朝見えれば、畑仕事に出かける時間で、夕方見えれば仕事を終えて帰宅する時間です。仕事の始まりと終わりを教えてくれる星なので、「しかま（仕事）ぶし」と呼ばれます。夕方、家で親の帰りを待つ子供たちは、親が戻って夕ご飯を作る始める星なので「ゆーばんまんだちゃー（夕ご飯はまだか）」の星になっています。

5. 農業、漁業と「ぱいがぶし（南星、ケンタウルス座 α 、 β ）」

「むりかぶし（群星、すばる、プレアデス星団）」が、稲作などで播種の時期を決めるのに、星見石を使って観測されていたことは良く知られていますが、「ぱいがぶし（南の星、ケンタウルス座 α 、 β ）」は、畑人（はるさー）、海人（うみんちゅう）が、農業や漁業の目安に使われていました。

年の暮れの明け方に、この二つの星が横に並んで見えると、倉からモミを出し水につけて、田植えの準備を始める。夕方、この星が横に並んで見えると稲刈りの季節だとされてきました。海人は、初夏にこの星が横に並ぶと、荒れた海を沈めてくれるので、沖にカツオを獲りにゆく季節がきたことを知るのです。

「ぱいがぶし」は、このほか四つのおっぱいを持つお母さんの民話、恋人同士の永遠の愛を示す古謡にもなっています。

6. 強制移住による悲恋の星「うやきぶし」

八重山諸島の黒島から、首里王朝の命令で、石垣島の野底地域に強制移住され、黒島の彼氏と離ればなれになった娘の悲しい話が、古謡として継承されている。

♪天の織姫と彦星でも、年に一度は会えるというのに、私たちはずっと会うことができない…

7. 民話「星女房」と「にしななちぶし（北斗七星）」

北斗七星のミザールとアルコルの大小二つの星から生まれた民話で、天に帰って行った母と子の星の物語になっています。

この他にも、このような沖縄の人々の暮らしに由来するたくさんの星名が残っています。星名などを学びながら、その時々星空や、その元で暮らす人々の姿を思い浮かべて頂ければ幸いです。